

鳥類等の脊椎動物における生態学的・心理学的行動研究

生物科学コース 上原 春香



ハシボソガラスによるスズメバチの捕食

ハシボソガラスは、外来巻貝のスズメバチを一部の地域でのみ捕食している。捕食行動には地域差があり、直接嘴で殻を割って捕食したり(上段)、落として殻を割って捕食したりする(下段)。落とす際には、落下地点の基盤の硬さに応じて落とす高さを適応的に調節する。

鳥類などの脊椎動物、とくにハシボソガラスを主な対象として、動物の学習や適応行動について生態学および心理学的な観点から研究を行っています。カラスの社会はヒトの社会と共通点が多く、個体が緩やかに結びついた離合集散型をとっています。この流動的な社会構造は、多数の仲間と出会うことで、個体に新しい行動を学ぶ機会を提供し、その結果、行動の幅が広がります。これにより、食物の獲得方法や利用可能な資源に関する情報の多様性も高まり、個体間の関係性や社会全体が豊かになります。さらに、カラスの学習や食性が他種に与える直接的および間接的な作用を考慮した、生態系全体への波及効果や、外来種管理におけるカラスの活用についての研究も行っています。

キーワード：学習、適応行動、種間関係、間接効果、外来種防除